ティーチングポートフォリオ（令和６年度）

准教授　木村貴子

１．教育の責任

担当する専門分野は「音楽」であり、主に保育者が現場で必要とする音楽に関する知識や技術、各発達段階における音楽の役割、表現等について教授している。その他、レクリエーション・インストラクター資格に関する科目について主担当を務める。具体的な科目について以下に示す。

科目分類	科目名など	形態	開設学年（単位数）など	卒業必修	幼稚園教諭	保育士資格	レク資格
専門科目	保育の展開技術(音楽)Ⅰ	演習	１年前期（１）			△	
	子どもの生活と音楽遊びⅠ	演習	１年後期（１）			○	
	子どもの生活と音楽遊びⅡ	演習	２年前期（１）			○	
	保育の展開技術(音楽)Ⅱ	演習	２年後期（１）			△	
	子どもの生活と遊び発表演習Ⅰ	演習	２年前期（１）			○	
	子どもの生活と遊び発表演習Ⅱ	演習	２年後期（１）			○	
	レクリエーション論	講義	２年前期（２）				○
	レクリエーション演習	演習	２年後期（１）				○
	レクリエーション事業参加	演習	通年で２回以上				○

○・・・資格取得にあたり必修　△・・・資格取得にあたり履修することが望ましい

その他、特別研究、カワイピアノグレード伴奏付けの指導を担当する。「中短♪音れくサークル」の顧問としては、音楽療法に基づいたレクリエーションを地域の子ども達や高齢者へ実践し、授業で学んだ知識や技術を深める機会を学生へ提供している。また、2 年生クラスアドバイザーとして、ガイダンスの計画と実施、学生面談および面談に基づく個別指導等を行い、学科と連携して学生のサポートを行った。

学習支援担当としては、入学前学習（ピアノプライベートレッスン、ピアノグループレッスン、ちゅっぴぃドリル、ミュージカル鑑賞レポート、推薦図書の感想文課題　等）について計画、実施、検証を行った。また、支援対象の学生およびご家族に対するサポートをセンターと連携して行った。前期ガイダンスにおいて、編入学支援に関する情報提供を行い、対象者のサポートを行った。

共同研究として、「保育現場の音楽的環境構成に関する一考察～聴くことを中心に～」のテーマで認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園との研究を行う他、看護学部との共同研究として、認知症予防教室「脳活いきいきプログラム」の音楽療法を担当し、いずれも次年度も継続の予定で進めている。

２．教育の理念と目的

専門科目においては、知識と技術に基づき、支援者が求める適切な支援を提供できる保育者を育成したいと考えている。そのためには、以下の点に留意し、授業を展開する。

① 理論に基づき、各発達段階における音楽の持つ役割を明示する。
② 音楽の持つ楽しさや特性を踏まえ、各発達段階における音楽を用いた保育活動について教授する。
③ 実技や演習についての練習や発表を経験することで、一つの活動や作品を創り上げていく達成感や喜び、他者との協調性を育む。
④ 生涯学習の一つとして音楽を捉えることができるよう、ピアノ演奏やその他楽器演奏、伴奏付け、歌唱等の音楽に関する基礎を身に付けさせる。

３．方法

① 理論に基づき、各発達段階における音楽の持つ役割を明示する

「発達段階と音あそびについて」というテーマで文献や研究結果の内容をパワーポイントに簡潔にまとめ、各年齢の発達段階に対する音や音楽の役割を解説した。また、理解した内容を記述するレポート課題を提出させることで、学生が学んだことを整理し、復習できるようにした。

② 音楽の持つ楽しさや特性を踏まえ、各発達段階における音楽を用いた保育活動について教授する

ピアノ伴奏の基礎として学ぶコードによる簡易伴奏を、子ども達の身体活動に応用できる伴奏にアレンジし、提供している。学生はそれぞれの子どもの発達段階や身体の動きに合わせてそれらの伴奏を活用できるよう練習し、授業内の実技テストで各担当教員がチェックを行っている。更に実践力を深めたい学生には、学外実習以外にサークル活動において対象者へ実践できる機会を提供している。

③ 実技や演習についての練習や発表を経験することで、一つの活動や作品を創り上げていく達成感や喜び、他者との協調性を育む

演習においてはグループワークを用い、全員が協力して取り組めるようグループ内の各メンバーにそれぞれ役割を持たせ、課題解決や話し合いの場を提供し、教員は連携して状況を確認、指導を行っている。レクリエーション演習におけるグループ発表後は、学生間でも互いに評価し合えるよう、評価シートへ点数と感想を記載させ、教員からのフィードバックと共に学生からの意見もフィードバックできるよう工夫した。子どもの生活と遊び発表演習Ⅱにおいては合奏用にスコア譜を作成し、学生がパートごとに練習・合奏できるようにしている。曲を仕上げて行く段階でスコア譜を用い、学生は読譜力や移調の技術、指揮法、担当楽器の奏法を学んでいく。合奏を行う事で、互いに聴き合いながら演奏をするアンサンブル能力や、完成度を高める際に必要な表現力を身に付ける。

④ 生涯学習の一つとして音楽を捉えることができるよう、ピアノ演奏やその他楽器演奏、伴奏付け、歌唱等の音楽に関する基礎を身に付けさせる

学生一人一人のピアノ演奏技術のレベルに合わせるために、グループ指導において全体への指導・課題提示を行うと共に、個人指導においてはマンツーマンのレッスンを行い、初心者と経験者どちらも自身のレベルに合ったレッスン内容を享受できるよう配慮している。また、コードを扱うことにより、機能的にピアノ伴奏ができることから、特にピアノ演奏初心者に対して有効なテクニックとして紹介している。

ピアノ経験者には、自身がまとめた「伴奏付けの指導方法に関する一考察～カワイピアノグレード６

級「伴奏付け」より～青森中央短期大学研究紀要第 30 号 p115-122（本学 HP 内“オープンリソース”よりダウンロード可)」をテキストとして用い、カワイピアノグレードテスト 6 級取得に必要な即興によるピアノ伴奏技術を教授している。

授業内における各学生の習熟度を確認するために、共通のピアノ課題内容について記載されたチェックシートを作成し、教員、非常勤講師全てが担当学生のピアノ習得の進度を確認、共有できるようにしている。また、本シートは課題習得毎に点数化され、学生が自身の習得状況について確認できると共に、教員が学生の授業理解度について評価する際にも活用している。

2 年生最後の音楽に関する授業「保育の展開技術（音楽）Ⅱ」では、学期末試験の課題として、学生自身が選曲し、時間をかけて練習した曲をコンサート形式で発表することで、生涯学習へ繋げている。

４．評価と成果

「子どもの生活と音楽遊びⅠ」で課すレポートは、授業１～3 で学んだ内容をまとめるという課題とした。評価は、A「授業の内容をまとめるだけではなく、自身の考え等も記述している」、B「授業の内容をしっかりとまとめている」、C「誤字・脱字・文法のミスや字数不足がある」、D を「未提出」とした。また、提出遅れに対しては減点対象とした。結果、A は全体の 46%、B は 32%、C は 14%、D は 7%であった。このことから、多くの学生が授業の内容をまとめるだけに留まらず、学んだ事に対する自身の考えまで書いているということが分かった。提出遅れに対しては減点としたため、実際には A や B 評価であった学生が一つ下の評価になった点を含めると、「誤字・脱字・文法のミスや字数不足」のために C 評価となった学生は昨年度より減少した。未提出である D に関しては、共通して授業を欠席していたということがあったため、欠席した授業内容について共有するなど事後指導を行っている。

ピアノの実技に関する授業では、複数に渡る課題やそれらの点数を可視化したチェックシートを最初に配布して用いることにより、学生は到達目標を確認しながら課題に取り組めたのではないかと思う。非常勤の先生方と合わせて 4 人体制で行う授業においても互いに連携を取り合い、学生一人一人のレベルに合わせた課題提示や授業を行うことが出来たと考える。

最終的な評価を見ると、S が 7%、A～A+が 36%、B～B+が 10%、C～C+が 36%、D が 11%という結果になった。課題をしっかりとこなした A～S の学生が 43%、努力が必要な D～C+の学生は 47%であり、課題について高い評価を得た学生が一定数いる一方で、基本的な技術を身に付けるのに苦戦している学生も多いという結果となった。

共同研究については次年度も継続し、附属第二認定子ども園との実施内容および成果については、令和 7 年度紀要において発表予定である。また、看護学部との共同研究については、以下のテーマで発表された。

「高齢者の認知症進行予防と家族の介護力強化を目的とした複合型プログラムの内容や介入方法の検討（青森中央学院大学研究紀要 第 36 号)」

「地域在住高齢者の認知機能低下の予防に関する複合型認知症予防プログラムの介入研究-第 1 報-（青森中央学院大学地域マネジメント研究所 研究年報第 20 号)」

本件については令和 7 年度も継続決定となり、同じく令和 7 年度紀要において発表予定である。

５．今後の目標

１）応用力をつけさせる

学んだ実技がどのように園の生活で活かされ、子ども達の成長や発達を促すことに繋がるのか、「ちゅっぴぃチャレンジ」やサークルの外部活動など、子ども達の様子を観察・確認できる機会を提供することで応用力をつけさせたい。

２）附属園との連携

学内で学んだ知識や技術を附属園で実践する機会を増やし、授業との連動を図りたい。特に、特別研究においては学生に実践の場を与え、保育者として現場で活用できる研究内容となるよう指導していきたい。

３）ピアノの練習に対するモチベーションを向上させる

モチベーションを向上させるために、ピアノの練習を継続し演奏技術を向上させることが、子ども達の成長や発達の支援に繋がるのだということを授業や特別研究等での指導を通して分かり易く学生に伝えたい。また、実際に支援者と音を楽しむ体験ができる機会を積極的に提供することで、保育者自身が音楽を楽しむということの大切さを伝えたい。

根拠資料リスト

・青森中央短期大学 成績評価の分布と授業評価アンケートの結果
・採点登録の結果
・シラバス
・授業レポート
・ピアノレッスンチェックシート